

# 新年



大館市長  
小 畑 元

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

昨年を振り返りますと、依然として景気の低迷が続く中、雇用の確保に積極的に取り組む一方、東北新幹線の全線開通をチャンスととらえた官民一体の観光振興や、大町の「ハチ公小径」オープンなどによる中心市街地のにぎわい創出に奮闘した年でした。

明けて、今年は「安心して暮らせるまちづくり」が課題となりま

す。そのためには、雇用の確保、福祉と医療の充実、地域コミュニティづくりの推進が最も重要です。長引く不況で地域の雇用が停滞する中、市では、県の基金を活用して失業者の雇用を図ってまいりました。引き続き雇用対策を喫緊の課題ととらえ、ニプロ、ニプロファーマなどの健康産業やリサイクル産業の事業支援を中心とした更なる雇用の拡大を図るとともに、昨年の養豚企業進出決定に続く新たな雇用を生み出す施策の強化に不転の覚悟で取り組みます。

また、少子・高齢化対策などの福祉の充実を進めていく一方、医師や看護師の確保を図るとともに、高度医療機器の整備・充実に取り組み、安心して利用出来る質の高い医療の提供に努めます。

地域コミュニティづくりでは、生涯学習の拠点となる公民館・分館の整備に取り組み、地域の活性化を目指す「地域応援プラン」の活用と合わせて、積極的に地域づくり活動をサポートしていきます。

本市は今年、市制60周年を迎えます。これまでさまざまな産業を生み出し、成長を遂げてまいりましたが、更なる発展のためには、「魅力あるまちづくり」をより一層推進していかなくてはなりません。

現在、中心市街地では、古くからのまちなみ再建に向けた大町地区の再生事業と、新しいまちなみを作る「御成町南地区土地区画整理事業」が着実に進んでいます。

日本海沿岸東北自動車道も、未着手の「二ツ井白神・あきた北空港」間が事業評価の対象となり、全線開通に向けて大きく前進しました。こうした社会基盤・都市基盤の整備を強固な礎として、本市の特性を最大限に発揮し開花させるとともに、時代の変革に対応する第4次行財政改革に取り組み、市民サービスの向上にあらゆる努力を傾注していきます。

本年も、市民の皆さんにとって明るく希望に満ちた年となりますよう心からお祈り申し上げます、新年のあいさつといたします。